

2章『戦うアイドル』 13

「無駄だ。超高压ウォータージェットカッター！」。黒蜜

ちゃんの両掌から放たれるシャーペンの芯より細い水のビームが、燃え盛る式鬼炎龍を頭から尻尾の先まで真っ二つに切り裂いた。

しかし。式鬼炎龍は炎が具現化したモンスターだ。左右に分断された体はすぐに元通りにつながる、再び黒蜜ちゃんに襲いかかる。

「強いじゃん式鬼炎龍ちゃん！勝てるよ！勝てる」。カノンが興奮した面持ちで叫んだ。

「笑止！そもそも水に火をぶつけるという安直さ、まさに小学生ならではね！」。黒蜜ちゃんの超高压ウォー

あみたん娘

The NOVEL

酒井 直行

タージェットカッター・極細水流が、セシルのステイックに命中！哀れステイックは真ん中の部分で二つに断裂された。

一方のセシルは、法力を失い、小学生のせしるの姿に戻ってしまった。

勝敗はついた。あみたん娘の完敗だ。力の差が歴然だった。

続けていた。

「あ、でも名前は少しだけ変えたいなあ。そうだわ。『あみたん娘ブラック』っていうのはどう？最近、富山ブラック

っていう黒いスープのラーメンがプチブレイクしていることだし、それとのコラボもありかも。ふふふ。それに、傑作と誉れの高い、なんちゃらライダーBLACKみたいでカッコいいじゃない」

キャラクター原案 松原 秀典
イラスト 那智 泉



「お2人が消えた後の心配はしなくてもいいわ。高岡と富山を元気づけるのは、この私だから。私だから。あ、そうだ。なんだった

ら、私が2代目あみたん娘になつてあげてもいいし」

呆然としゃがみ込むせしるを守るように、カノンが前に立ちはだかる。一方、黒蜜ちゃんはニコニコと調子に乗って話を

「冗談にも程があるぞヴァルナ！すぐにセシルのステイックを元に戻すんだ」。あみたんが黒蜜ちゃんを聞きなれない名前前で呼んだ。

そしてその瞬間、式鬼炎龍は苦しそうに吠えた後、あとかたもなく消滅してしまった。

「式鬼炎龍ちゃんが消えちゃった！」。カノンが今度は悲痛な叫びを上げた。